科目番号	51009	分類	専門科目	高度実践看護コース	単位	1
科目名	治療のためのＮＰ実践演習 （Practice of Treatments for critically ill patients）				実時間数	30時間
					時期	後期
担当者	○志 雅之　他26名	区分	必修	単位	時間	6

時間	カリキュラム	180
	指定行為研修（実時間）	
	非常勤総時間	195コ

学生に修得の予期される能力	
○ 1	クリティカル領域における診療の現状を知る
○ 2	クリティカル領域における診療の特徴を理解する
○ 3	最新知識を説明する
○ 4	専門職として高度診療技術を習得する
○ 5	高度実践看護師としての責任と倫理的問題を理解する
○ 6	指定看護師に必要な知識を知るとともに指定行為を説明する
○ 7	クリティカル領域における診療の現場問題を説明する

授業の概要及び目標
1.概要： クリティカル領域における治療法の科学的根拠をふまえた適切な治療法の理解を深め、治療過程の変化を的確に予測する力を養う。また、治療を理解するとともに、治療を通じて生命を支えるための知識と看護技術を理解する。また、治療を通じ患者の家族に寄ってその療育の過程と治療についてコミュニケーションを通じ患者の意思決定に基づいて治療方法の選択と治療についてプロセスを理解する。治療プロ活用実践にプロセスの実践を修得する。また、当事者の立場から治療・調理を理解する。 目標： 1. クリティカル領域特有の治療に対する理解を深めるができる。 2. クリティカル領域において遭遇する事例について治療の選択ができる。 3. クリティカル領域の治療に必要な技術を実践できる。 4. 治療の現代的な問題・調理を説明できる。

授業計画		担当教員
回	内容	
第1回	Ⅰ. 救急・重症患者の管理 1. 循環動態のモニタリングと薬物（カテコラミン・鎮圧剤） ・輸液療法の原則と種類 ・疾患に応じた輸液療法の適応と禁忌・ ・輸液時に必要な検査 ・輸液療法の手技 ・カテコラミン製剤の種類と臨床薬理 ・各種カテコラミン製剤の適応と使用方法	他26名
第2回	・輸液ポンプの種類と使用方法 ・輸液ポンプの適応と禁忌 ・各種鎮圧剤の適応と使用方法	
第3回	・カテコラミン製剤の作用・副作用 ・各種鎮圧剤の薬理作用	
第4回	・各種鎮圧剤の適応と禁忌 ・各種鎮圧剤の薬理作用	
第5回	2. 知識領域と実践領域／実践管理の技術（NOC/OUHリポート） ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第6回	・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の方法と手技（OSCE） ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する解剖学 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要病原の病態生理 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要病原のフィジカルアセスメント	
第7回	・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策）	
第8回	・持続点滴による電解質（ナトリウム、カリウム又はクロール）の投与の適応と禁忌 ・持続点滴による電解質（ナトリウム、カリウム又はクロール）の投与の適応と使用方法 ・持続点滴による電解質（ナトリウム、カリウム又はクロール）の投与の副作用 ・疾患に応じた持続点滴による電解質（ナトリウム、カリウム又はクロール）の投与の目的の明確化（ペーパーシミュレーションを含む）	
第9回	・持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整のリスク（有害事象とその対策） ・輸血輸血、電解質輸血の種類と臨床薬理 ・各種輸血輸血、電解質輸血の適応と使用方法 ・各種輸血輸血、電解質輸血の副作用 ・利尿剤の種類と臨床薬理 ・各種利尿剤の適応と使用方法 ・各種利尿剤の副作用	
第10回	3. 不整脈への対処 ・心電図モニターの目的 ・一時的ペースメーカの適応と禁忌 ・一時的ペースメーカに伴うリスク（有害事象とその対策） ・ペーシング機能の種類とメカニズム ・ペースメーカのモードの選択と適応 ・一時的ペースメーカの操作及び管理方法 ・患者・家族への指導及び教育	
第11回	4. 呼吸器の管理 ・経口又は経鼻気管挿管の目的	
第12回	5. 感染予防と対処（薬物療法含む） ・感染症の病態生理	
第13回	6. 意識レベルの管理	
第14回	7. 呼吸の管理	
第15回	Ⅱ. 集中治療の管理 1. ショック患者の管理 ・動脈血酸ガス分析ガス分析と与える主要病原との病態	
第16回	2. ＩＣＵにおける血糖管理と人工栄養療法 ・インスリン療法の目的 ・糖尿病とインスリン療法に関する検査（インスリン療法の導入基準を含む） ・インスリン製剤の種類と臨床薬理 ・各種インスリン製剤の適応と使用方法 ・各種インスリン製剤の副作用	
第17回	3. 各種カテーテル・ドレーンチューブ管理、低圧持続吸引装置 ・低圧無菌内持続吸引の適応と禁忌 ・低圧無菌内持続吸引に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第18回	・低圧無菌内持続吸引器のメカニズムと構造 ・低圧無菌内持続吸引器の吸引圧の設定及び圧の変更方法	
第19回	<主要薬物の薬理作用・副作用の理論と実習> Ⅲ. がん化学療法とペインコントロール 1. がん化学療法 ・抗癌剤の種類と臨床薬理 ・各種抗癌剤の適応と使用方法 ・各種抗癌剤の副作用	
第20回	2. がん療養の薬物療法	
第21回	3. 痛みの緩和と鎮痛療法（硬膜外カテーテルの留置法を含む） ・ステロイド剤の種類と臨床薬理	
第22回	・ステロイド剤の副作用	
第23回	4. 抗癌剤投与に伴う障害とその対処法（薬剤漏出等）	
第24回	・抗癌剤の他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理 ・抗癌剤の他の薬剤が血管外に漏出したときの症状と診断（ペーパーシミュレーションを含む）	
第25回	Ⅳ. 治療と看護技術 1. 呼吸管理の技術 1) 疾患に応じた人工呼吸器の使用・管理機器	
第26回	疾患に応じた人工呼吸器の使用・設置実 2) 疾患に応じた人工呼吸器の設定変更 ・人工呼吸療法の目的	
第27回	・人工呼吸療法の適応と禁忌 ・人工呼吸療法に関する解剖学	
第28回	・人工呼吸療法を要する主要病原の病態生理 ・人工呼吸療法を要する主要病原のフィジカルアセスメント	
第29回	・人工呼吸療法の適応と禁忌 ・人工呼吸器のメカニズム・機構・構造	
第30回	3) 気管挿管・気管切開の種類とその方法 ・機械的換気器具の設定の目的 ・機械的換気器具の設定条件の変更の適応と禁忌	
第31回	・機械的換気器具の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策） ・機械的換気器具の選択と適応 ・機械的換気器具の設定条件の変更方法	
第32回	4) 人工呼吸療養中の患者の離脱管理 ・非侵襲的換気器具の目的 ・非侵襲的換気器具の適応と禁忌 ・非侵襲的換気器具の設定条件の変更に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第33回	・非侵襲的換気器具の設定条件の選択 5) 人工呼吸療養中の患者の循環管理（NIPPV含む） ・人工呼吸療管理がなされている患者に対する循環の目的	
第34回	・人工呼吸療管理がなされている患者に対する循環の適応と禁忌 ・人工呼吸療管理がなされている患者に対する循環に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第35回	・人工呼吸療管理がなされている患者に対する循環の選択と投与量 ・人工呼吸療管理がなされている患者に対する循環の方法	
第36回	6) 人工呼吸療養からの離脱の目的 ・人工呼吸療からの離脱の適応と禁忌 ・人工呼吸療からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第37回	7) 人工呼吸療養からの離脱の手技 ・気管カニューレの種類と選択 ・気管カニューレの装着と選択 ・気管カニューレの交換の手技	
第38回	・気管カニューレの交換の頻度由の種類とその対処	
第39回	8) 気管カニューラの交換 ・経口気管管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技 ・気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第40回	9) 気管チューブの位置調整 ・経口気管管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の目的 ・経口気管管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の適応と禁忌 ・経口気管管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第41回	・経口気管管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整の手技	
第42回	2. 輸血の管理 ・血液型検査のアセスメントと治療	
第43回	2）輸血の実際	
第44回	3）感染輸血と疾患の形成	
第45回	3. ショックの事例における治療体制 1.) 出血性ショックに対する応急処置 ・救命ドレナージに関する解剖学 ・救命ドレナージを要する主要病原の病態生理 ・救命ドレナージの適応 ・救命ドレナージの適応と禁忌	
第46回	4. 胸腔ドレナージ管理（ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策））	
第47回	1.) 胸腔穿刺（緊張性気胸含む） ・胸腔ドレーンの種類と禁忌 ・胸腔ドレーンの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策）	
第48回	2.) 胸腔ドレナージ ・胸腔ドレーンの挿入の方法と手技	
第49回	5. 実習環境の確保 1.) 実習 ・実習前の準備と安全管理 ・実習中の安全管理 ・実習後の安全管理 2) 実習 ・実習前の準備と安全管理 ・実習中の安全管理 ・実習後の安全管理 3) CV穿刺法と合併症 ・中心静脈カテーテルに関する解剖学 ・中心静脈カテーテルを要する主要病原の病態生理 ・中心静脈カテーテルを要する主要病原のフィジカルアセスメント ・中心静脈カテーテルの挿入の適応と禁忌 ・中心静脈カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策） ・中心静脈カテーテルの目的 ・中心静脈カテーテルの適応と禁忌 ・中心静脈カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策） ・中心静脈カテーテルの挿入の方法と手技 4) 高カロリー輸液 ・高カロリー輸液の種類と臨床薬理 ・高カロリー輸液の適応と使用方法 ・高カロリー輸液の評価と評価 ・高カロリー輸液の利益基準（ペーパーシミュレーションを含む） ・低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク（有害事象とその対策） ・高カロリー輸液に関する栄養学 6. 腎機能の管理（CKD） 1.) 輸血の実際 ・輸血及び腎性貧血の治療における血流のない領域組織の除去の目的 ・輸血及び腎性貧血の治療における血流のない領域組織の除去の適応と禁忌 ・全身・局所のフィジカルアセスメント ・腎臓機能の種類と病態 ・輸血の分類、アセスメント・評価 ・治療のアセスメントとモニタリング（血圧治療過程、TIME理論等） ・リスクアセスメント ・輸血及び腎機能の変動管理 ・輸血及び腎機能の低下と対策 ・腎機能及び腎機能の低下と対策 ・ＣＫＤの定義と重ついた治療指針* ・輸血及び腎機能のアルゴリズム* ・輸血のアセスメント ・輸血の治療のステージ治療所療法 ・下腎臓機のアセスメント ・下腎臓機の病態治療 ・輸血及び腎性貧血の治療における血流のない領域組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策） ・（ＤＣＳＧＩＲＩＣ）事前に之事 可能組織の除去の判断 ・全身状態の評価と除去の適応判断（タンパク量、感染リスク等） ・薬可能量（腎毒治療の選択判断 ・物理的療法の適用 ・腎臓に対する臨床薬理療法の方法 ・腎臓に対する臨床薬理療法による血流の止血方法 2.) 腎機能代替治療のアシデリメント ・性質、腎不機能（腎全体）に関する解剖解剖 ・主要臨床薬理の原理 ・腎臓及び腎性貧血の治療における血流のない領域組織の除去の方法 ・ＩＣＵＳＣＯＲＥ（OSCE） 7. 腎機能に関するADE発現の管理 1.) ベースメーカーとその管理 ・一時的ペースメーカの挿入の目的 ・一時的ペースメーカの挿入の適応と禁忌 ・一時的ペースメーカに伴うリスク（有害事象とその対策） ・一時的ペースメーカの挿入の方法 2) ICPSとその管理 ・経皮的心肺補助装置の目的 ・経皮的心肺補助装置の適応と禁忌 ・経皮的心肺補助装置とそのリスク（有害事象とその対策） ・経皮的心肺補助装置のメカニズム ・経皮的心肺補助装置の操作及び管理の方法 3) IABPとその管理 ・大動脈内バルーンパンピングの目的 ・大動脈内バルーンパンピングの適応と禁忌 ・大動脈内バルーンパンピングに伴うリスク（有害事象とその対策） ・大動脈内バルーンパンピングの操作及び管理の方法 ・大動脈内バルーンパンピングからの離脱のための補助の継続の時間に伴うリスク（有害事象とその対策） ・大動脈内バルーンパンピングからの離脱の操作及び管理の方法 第97回 4) 血液浄化療法時とその管理 第98回 ・急性血液浄化療法に関する解剖解剖 第99回 ・急性血液浄化療法を要する主要病原の病態生理 ・急性血液浄化療法を要する主要病原のフィジカルアセスメント 第100回 8. 技術練習 第101回 1.) 頸動スカテーテルの管理と交換（OSCE） ・頸動スラに関する解剖解剖 ・頸動スラの目的 第102回 ・頸動スラの適応と禁忌 ・頸動スに伴うリスク（有害事象とその対策）	他26名

事前・事後学習	事前学習：当日の授業に関し参考図書の内容を予習し理解して授業に参加する。 事後学習：授業の内容を配布資料と参考図書等で復習する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	単位試験と実技試験（OSCEを含む）で評価する。 クォーターバックは提出する。
参考図書	適宜紹介する。
資料及び備考	オリジナルプリントについては、学生便覧を参照に、教育に活用致します。